

夢 限 大

倉敷市立連島中学校第2学年

学年だより (特別号)

いきおい
うるおい
まことまり



令和4年9月22日 (木) vol. 10

先日、訪問する事業所が決まり、これから連島中チャレンジワークの学習が、どんどん進んでいきます。自分の将来・人生はなるのか? 働いてどうということ? など、自分自身と社会・世の中について、少しでも考えるきっかけになればと思います。

【〇〇〇ワーク】

生活の糧(かて)を得るために働くことを「ライスワーク」というそうです。かつての日本人の働き方は「ライスワーク」だった。しかし、今も「ライスワーク」の考え方で働いていると、『仕事が忙しすぎて休みがない』『職場の人間関係が嫌で』『仕事がつくなくなってきて』などの理由で簡単に退職してしまう。仕事をすれば必ず報酬(ほうしゅう)がある。最初は給料だ。それを生活の糧にしていける。しかし、「ライスワーク」が目的になっていたら、本当の仕事の喜びは見えない。

仕事が面白くなってきた段階を「ライクワーク」という。すなわち、好きなことを仕事にできればいいが、それができなければ今の仕事を好きになることだ。好きなことをやっていくとどんどん力が付いてくる。その時、仕事の報酬は能力の向上になる。

さらに心を込めていけば、好きな仕事は人生を掛けてもいいと思える仕事、すなわち「ライフワーク」になり、ライフワークを極めていくと、多くの人に喜びを与え、社会に光を当てられるようになっていく。その仕事を「ライトワーク」という。(日本講演新聞 社説より)

単に“働く”といっても、何のために働いているのか(=働く目的は何?)で、その人自身の働き方や人生そのものが変わってくるんですね。この前のマナー講習の中でも、「幸せに生きるとは?」という部分を繰り返されていたことと思います。何のために生きるのか? どう生きるのか? からさらに踏み込んでいくと、よりよく生きるための良好な人間関係を築くには、「マナー(礼儀作法)」があるということも分かりましたね。

もうひとつ。東京ディズニーランド(TDL)を運営している(株)オリエンタルランドの元常務取締役の北村和久さんが、このように語っていらっしゃいました。

『アメリカのウォルト・ディズニー社の幹部から、東京ディズニーランド(TDL)開園に向けての社員教育について、1つ約束させられた。「ディズニーランドはコミュニケーションを売る場所だから、TDLには自販機を1台も置かないでくれ。入場券もドリンクも手から手へ、スマイルからスマイルへ、を基本としてくれ。だってモノを売る時が絶好のコミュニケーションのチャンスじゃないか。」

入場ゲートでチケットを販売するキャストのマニュアル本を渡された。そこにはこう書かれてあった。「あなたの仕事は入場券を売ることではない。ゲスト(お客様)とコミュニケーションをすることだ。」北村さんは全キャストに「いらっしゃいませ」の代わりに「こんにちは」を言わせた。そしてマニュアルには2つのことを加えた。①目を見て言う。②笑顔で言う。』

ウォルト・ディズニー社にとって「便利=サービス」ではない、ということなのですね。「便利だからと機械だけに接客させていると、もっと便利なものが出てきたら、あっという間にお客様はそっちに流れるよ」とも、ディズニー社の幹部は考えるのだそうです。

社会の中で働く・生きていくというのは、コミュニケーション無しでは考えられません。だから、私たちは、日々、学校や地域という小さな社会の中でコミュニケーションについて考え、学び続けているのです。明日からでも実践できる小さなコミュニケーションから始めてみませんか?(^o^)

『1日であらゆるすべての人に笑顔と元気なあいさつ』してみませんか?